

## 平成30年度 各区の地域課題の解決に向けた取組状況について

## 葵区事務局会議・連絡調整会議 事務局

テーマ	過去提出課題の進捗状況の確認と達成に向けた取り組みについて
概要 (課題となるポイント)	<ol style="list-style-type: none"> <li>① 今までに提出された地域課題への対応状況を確認し、課題解決に向けた取り組みを講じていく必要があります。</li> <li>② 地域課題への取り組みの進捗状況を関係者で共有するため、連携を強化する必要があります。</li> </ol>
詳細 ・現状分析 ex.相談事例（相談者の声） 既存のサービス 既存のデータ	<p>○課題提示後の対応についての改善案</p> <p>たとえば、緊急ショート受け入れのための健康診断の様式の統一化については、現在サービス調整コーディネーターが各事業所へアンケート調査を行い、今後、結果を公開していくことを各区の連絡調整会議や全市連絡調整会議でも発信されています。他の課題も部会として継続した対応をされていますが、詳細な内容や進捗状況を各区連絡調整会議や全市連絡調整会議で共有して頂くと、より関係機関で連携した取り組みを実施できると思います。</p>
事務局会議・連絡調整会議としての解決に向けた取組み ex.市場分析（環境分析） ニーズの把握	<ol style="list-style-type: none"> <li>① 課題の中から優先事項を決定し、中長期的視野も含めて、各事業所と協力してその年度で取り組む課題の問題点を収集し、具体的にどのような改善を要するか、そのために必要な情報を提示できるようにします。 たとえば、重症心身障害児者の日中一時支援の利用については、制度の有効活用に結び付いていない現状もあるので、ニーズ調査や実績調査を行い、課題の抽出、改善策の提案ができれば良いと考えています。</li> <li>② 過去提出課題への対応を実効性のあるものにするため、部会員等の関係者を含めた各区又は全市連絡調整会議を開催し、課題解決に向けた連携を緊密化し、さらに自立支援協議会の活性化が図ればよいと考えます。</li> </ol>
解決策や今後の方針	<ol style="list-style-type: none"> <li>① 解決に向けた取り組み方針を提示していきます。</li> <li>② 自立支援協議会と各区及び全市連絡調整会議の連携の在り方について検討していくとともに事業所で行えることを実施していきます。</li> </ol>

テーマ	地域の関係機関の連携強化と、自立支援協議会の周知について
概要 (課題となるポイント)	障害者自立支援協議会の役割について、障害者総合支援法には「地域課題の共有」、「連携の緊密化」、「地域の実情に即した体制の整備」等が謳われている。しかし、地域の関連機関による協議会への意識は、設置より 10 年が経過した現在においても、未だ十分と言えない。
詳細 ・現状分析 ex.相談事例（相談者の声） 既存のサービス 既存のデータ	<p>・一昨年度、昨年度と、地域課題について検討する過程でアンケート調査を実施する機会があったが、その聞き取りの過程で、地域の障害福祉サービス事業所における自立支援協議会への認知度の低さ、関与の少なさ、関係機関との連携の乏しさが浮き彫りとなった。協議会の役割や、地域の課題を吸い上げる仕組みなどについても、十分な周知が出来ておらず、関心も薄いことが窺えた。また、現状各事業所において、関わりを持っているのは障害福祉（あるいは、より限定的に当該サービス）に関連する機関と行政程度であり、隣接した領域（医療・教育・介護保険等）との連携がほとんど取れていない、連携の為のノウハウが足りないと言う実情もつかいがい知れた。</p> <p>・実際に地域の課題に直面しているのは、地域の住民・支援者と、支援機関・事業所であり、それらの相互連携と協働無くして、地域課題の解決は図れない。</p>
事務局会議・連絡調整会議としての解決に向けた取組み ex.市場分析（環境分析） ニーズの把握	<p>①H30年7月10日(火) 駿河区事務局として、「児童相談所の役割と、障害福祉分野との連携」をテーマに、児童系サービス事業所を中心に関係者を招き、第1回連絡調整会議を開催した。参加者総数は52名。配布したアンケートを集計したところ、自立支援協議会について十分に認識が無いとお答えいただいた団体が半数を超えた。</p> <p>②H31年1月15日(火) 第2回連絡調整会議を開催。地域移行支援部会 精神障害者地域移行支援ワーキンググループとの共同開催とし、駿河区内の地域包括支援センター職員と、上記ワーキンググループ参加者、駿河区事務局会議参加者の連携強化の場として設定した。「障害福祉サービスの仕組みと相談支援窓口について」「精神科病院へのアクセスと地域移行の現状」「地域移行・8050 関連事例を用いたグループワーク」という構成で、相互理解と「顔の見える関係」作りを目標とした。参加者総数は55名。アンケート結果から、高齢介護分野においても、精神科医療・障害福祉分野への関心と連携に対する意識が非常に高いことが分かった。詳細は別表。</p>
解決策や今後の方針	長期的な目標としては、サービス事業所をはじめとした地域福祉の現場から、生の声としての地域課題が協議会に提起される環境が醸成されることであり、福祉関係者をはじめとした地域の構成員にとって、協議会がより身近な存在になることである。引き続き、区連絡調整会議等の場を用いて、地域の関係機関を対象に協議会の周知を行うと同時に、連携の強化を図るために、交流会や研修・各種講座を通じて、各機関が繋がる「きっかけ作り」を行い、「相互連携と地域協働」を実現する足掛かりとしていきたい。

※アンケート集計（回収率 38/55）

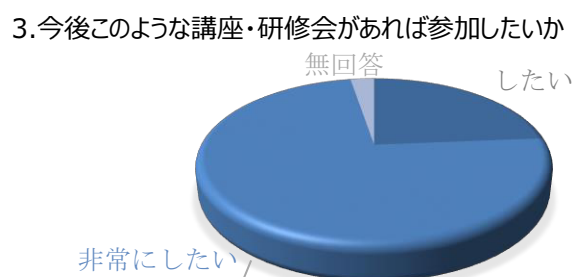
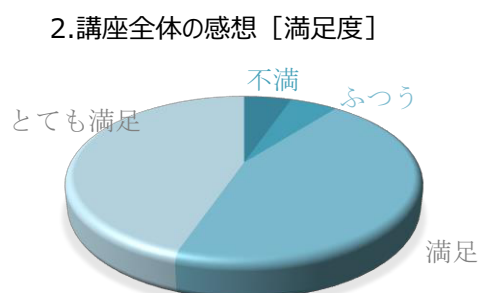
1. 参加者の所属機関と職種について						
所属機関	人数	内訳 ※丸囲み数字は人数を示す。				
委託相談支援事業所	9	相談支援専門員③、精神保健福祉士④、保健師①、その他(ピアサポーター①)				
特定相談支援事業所	3	相談支援専門員③				
障害児相談支援事業所	3	相談支援専門員③				
基幹相談支援センター	2	相談支援専門員②				
地域包括支援センター	7	(主任)介護支援専門員①、社会福祉士⑥				
医療機関	6	精神保健福祉士⑤、看護師①				
行政機関	7	精神保健福祉士③、保健師①、心理職①、行政職②				
その他	1	相談支援専門員①				

2. 講座全体の感想 [満足度]						
	とても不満	不満	ふつう	満足	とても満足	無回答
総合評価	0	2	2	17	17	0

3. 今後このような講座・研修会があれば参加したいか						
	全くしたくない	したくない	どちらとも言えない	したい	非常にしたい	無回答
参加希望	0	0	0	9	28	1



4. 主な意見・感想	
所属機関	
相談支援事業所	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域包括のスタッフが少なく感じた。</li> <li>・企画・連携・調整して下さった精神科地域移行支援 WG の皆様お疲れ様でした。事例を包括さんからあげて頂いても良かったかもしれません。</li> <li>・各区の交流。</li> <li>・つながることは大事ななと実感しました。</li> </ul>
地域包括支援 C	<ul style="list-style-type: none"> <li>・障害について基礎的なことを知ることができました。ありがとうございました。</li> <li>・自立支援協議会にケースによって包括が参加できるとありがたいと思います。</li> <li>・障害高齢分野で共催する研修も良いのではないのでしょうか。</li> <li>・行政内の連携もお願いします。</li> </ul>
医療機関	<ul style="list-style-type: none"> <li>・とても有意義な時間でした。出来ればもっとお時間があると良かったです。</li> </ul>
行政機関	<ul style="list-style-type: none"> <li>・このような機会を定期的に設けて頂けると良いと思います。</li> <li>・いろいろな分野とつながることの大切さと難しさを感じた。</li> </ul>
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・顔が見える連携の時間が取れて良かったです</li> </ul>

平成 30 年度 各区の地域課題の解決に向けた取組状況について

清水区事務局会議・連絡調整会議 事務局

<p>テーマ①</p>	<p>高齢者福祉関係機関との連携について PART II</p>
<p>概要 (課題となるポイント)</p>	<p>・近年、80 代の親と 50 代のひきこもり状態にある子(8050 問題)に関する支援が増え、地域包括ケアシステムを構築する上でも高齢者福祉関係機関との連携が必要不可欠になっている。しかし、それぞれの機関が対象者を中心に支援を進める傾向にあり、連携を取ることが難しい状況にある。</p> <p>・障害福祉サービスは、本人の意向を確認し同意を得た上で本人主体の支援を進めていくことが原則になっており、介護者との関わりが主となりやすい高齢者と比べ、支援の方法やスピードに隔たりがあると感じており、お互いの業務の理解が必要である。</p>
<p>詳細 ・現状分析 ex.相談事例（相談者の声） 既存のサービス 既存のデータ</p>	<p>・障害者支援と高齢者支援では対象者が異なり、個人情報観点からもお互い気軽に相談をしにくい状況にある。また、支援方法についても検討する場が少なく、対応の仕方などの理解が得られにくい。</p> <p>・老障同居世帯における高齢者を支援している地域包括支援センターなどの相談機関に、障害のある方の相談窓口の周知が出来ておらず、障害者支援の方法を伝える機会が無い。</p>
<p>事務局会議・連絡調整会議としての解決に向けた取組み ex.市場分析（環境分析） ニーズの把握</p>	<p>・障害者の福祉サービスの内容や相談支援の方法などをご理解いただくことや、地域ネットワークの構築を目的に、平成 30 年度第 2 回清水区障害者相談支援連絡調整会議を開催した。</p> <p>・第 1 回連絡調整会議の際に行ったアンケートにおいて、お互いの状況について話し合いができる会議の開催を求める意見があったことから、気軽に話ができる機会を作るため、少人数のグループワークにてフリートーク形式にて意見を出し合った。</p> <p>【日時】平成 30 年 11 月 14 日（水）13:30～15:30 【場所】清水区役所 3 階会議室 【参加人数】38 名 【参加機関】地域包括ケア推進本部 地域支え合い推進係・清水区内の全地域包括支援センター（9 包括）・静岡市暮らししごと相談支援センター・地域生活支援ネットワークコーディネーター・静岡市清水手をつなぐ育成会・清水特別支援学校・清水区内特定相談支援事業所 等 【会議内容】療育手帳について・障害福祉サービスについて・困難事例への支援策検討・グループでの意見交換 【グループワーク意見のまとめ・アンケート調査】※P7 以降の別紙 1.2 参照 【結果】 ・委託相談支援機関の役割や障害者福祉サービスの利用方法などを具体的</p>

	<p>に示したことで、情報共有を図ることができた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者相談機関や障害者相談機関の情報伝達については、どのタイミングで行うべきかの共通認識がされておらず、早期での情報共有をしないことによる問題が発生しやすいことが分かった。</li> <li>・互いの相談支援機関の相談援助方法に違いがあるため、緊急性の判断や事例に対する認識が異なりやすいため、連携方法の検討が必要とわかった。</li> </ul>
解決策や今後の方針	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者相談機関と協議する会議を定例化し、世帯を一つの相談ケースとして捉え情報共有する方法を見出すことで、8050 問題に対する支援方法が容易になるようにしていく。</li> <li>・計画相談支援事業所を含む障害者相談支援機関の互いの相談対応の方法を理解し、清水区として統一した情報提供ができるようにして行く。</li> <li>・清水区内の支援機関が一体となって支援に取り組むことで、障害者も高齢者も住み慣れた地域で自分らしい生活を送るための仕組みづくりを行う。</li> </ul>

平成 30 年度 各区の地域課題の解決に向けた取組状況について

清水区事務局会議・連絡調整会議 事務局

テーマ②	静岡市東部地域(由比・蒲原)の障害福祉サービスについて PART II
概要 (課題となるポイント)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・静岡市東部に位置する由比・蒲原地域においては、障害福祉サービス事業所が少なく、障害のある方の障害特性や生活状況に応じたサービス利用が難しくなっている。また、職場についても障害のある方に対応する企業や事業所が近隣に少なく、通勤にも課題があり就業が難しい。</li> </ul>
詳細 ・現状分析 ex.相談事例（相談者の声） 既存のサービス 既存のデータ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・由比・蒲原地域在住の方は、主に清水区内の事業所を利用するが、近隣には事業所が少なく、気軽にサービス提供を受けることが難しい。</li> <li>＊ 第 1 回全市連絡調整会議後、就労継続 A 型事業所の業務縮小があり、就労系事業所が減少。地域への対応可能となった B 型事業所が 1 か所増。放課後等デイサービスは、1 事業所が増え、対応可能事業所が 1 か所増。</li> <li>・静岡市との合併以前は、各町村独自の限られた福祉サービスしかなく、現在の地域住民には福祉的支援の存在や、サービスを利用することについての情報などが認識されていない可能性が高い。そのため、困りごとに対して予防的支援が行われ難い。</li> </ul>

<p>事務局会議・連絡調整会議としての解決に向けた取り組み ex.市場分析（環境分析） ニーズの把握</p>	<p>・静岡市東部地域に隣接する富士市・富士宮市西部地域の相談支援の状況を把握し、双方の障害者福祉においてより良い支援策が講じられるよう、富士市自立支援協議会メンバーを招き「隣接地域の障害福祉サービス情報交換会」を実施した。</p> <p>【日時】平成30年7月11日（水）13:30～15:30</p> <p>【場所】静岡市しみず社会福祉事業団 【参加人数】36名以上</p> <p>【参加機関】富士市障害者自立支援協議会事務局員（富士宮社協指定相談支援事業所・地域生活支援センターせふりー等の7事業所相談支援機関）・地域生活支援ネットワークコーディネーター・清水特別支援学校・清水区内特定相談支援事業所等</p> <p>【会議内容】互いの地域課題と、既存のサービス事業所の地理及び対応状況の共有を行った。</p> <p>【結果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・富士市内のサービス事業所に静岡市側へのサービス提供を望むが、富士川を超えての送迎には時間的制約があり、対応可能な事業所が少ない。このことは、富士川西側の富士、富士宮市民にとっても重要な地域課題となっていた。</li> <li>・静岡市東部地域において福祉サービスを必要とする住民の福祉サービスに対する認知度を高める必要性があった。</li> <li>・困りごとが発生した際に対応する支援機関が少なく、問題が大きくなってから支援が開始されることが多い。そのため急を要する困りごととして、困難事例に発展しやすい。</li> </ul>
<p>解決策や今後の方針</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・隣接する地域として定期的な情報共有をする機会を作り、互いに支援策を検討していく。</li> <li>・第2回情報交換会を、H31年1月24日に開催し、富士圏域へ出向き、交通事情などを含む実態把握をしていく。</li> <li>・静岡市東部における障害者に関する相談体制の状況把握を行うとともに、障害のある方の実態把握を含め、富士市自立支援協議会と共同した出張相談会などを行うことができないか検討してみる。</li> <li>・地域的に高齢化していることを踏まえ、親亡き後の困りごとを減らすため、由比蒲原地域の方々が障害者福祉サービスを利用し安心して生活できるようにしていく。</li> </ul>

## 第2回清水区相談支援連絡調整会議

日時 H30.11.14(水) 13:30~14:30

参加人数 40名

「グループでの意見交換」まとめ

★ 6グループに分かれ、テーマを設定せず自由に話をしていただいた結果、各グループ共通する意見が出ておりましたので一括してまとめさせていただきました。

## ① 高齢者、障害者に関する事例について

事例1：男性 父…死去 母…認知症(施設入所)

本人…新聞配達の新聞を抜く(清水区全域)→支援会議

◎その行動はどこから？

母に会いたい…ある程度暮らすと落ち着く、サイクルができてくる。

新聞店の段ボール 鍵を壊す(高価)→弁償は叔父 飲んだり食べたり。

何故いけないのか？→経験をしてこなかったので分からない。 時間・労力・給付がされていない。

誰がどこでどんな支援をするのか？ 実行=慈善

叔父(90代 心臓病) 後見人を探すことになった。

本人…入所は絶対嫌 仲間に頼み施設見学に行くと2回実施 →逃げたが

今は順調に施設で暮らしている 入浴等・清潔・体験をして快適と分かった

◎じっくり関わることができるのは誰か？

事例2：「高齢の方を支えているのも高齢者」というケース

親が急に亡くなるケースもある。→シニアサポーター制度の活用、お互いの支え合い、下の世代の意識を変える。

事例3：高齢の本人

母が認知症 亡くなる例ある。

地域の見守り、民生委員にも声をかけていく。

事例4：連携遅いかな？

息子には障害の相談員が関わっていた。

親(認知症)がいなくなった後、ゴミ屋敷になった。早く関わられたのに→困難事例になってしまった。

事例5：ノーマークだった高齢者

手帳はないが、障害のある息子と父の二人暮らし。

父は道で倒れていたことあるが救急車の要請拒否 ←関わるタイミングだったのかも。

息子が仕事に行き職場で「お父さんが寝ていて見送ってもらえなかった」

おかしいと思った職場の方からの連絡で自宅で亡くなっている父を発見(不審死)

## 事例6：なんきんむしを持って人

事業所をやめてほしいと言われている。訪問も拒否、サービスも終了。

本人は拒否 母…認知症

保健所は対象外と対応できる。なんきんむしの天敵がゴキブリ。病院も時間外に来てくれという。

アパート全体に広がった、自己管理ができてないこと。

## ② 相談対応の困り事について

- ・息子が一般就労、父介護保険利用。本人嫌がっていたが年金管理を後見人に頼んだ。地域は一人生活を心配、どう理解してもらうか？
- ・40代の方、手帳持っている方少ない、昔の方はサービスそのものを知らない。
- ・障害？普通でない方がいた時、支援課？
- ・障害に関することは、一般にはどこへ相談したらいいのかわからない。
- ・障害の方、困っているという事を発信できない(年齢的に)。家の中で世話をする(父は子育てには関わらず母が見る)。市外地(由比、蒲原)は特に町の中で何とかしてきたので今更感あり。
- ・発達障害の方もご家族、本人からの申し出がないと支援に関わりにくい。
- ・高齢者世帯なら訪問できるが障害については勝手に訪問できない→家族の誰でもいいのでヘルプを出してくれれば繋げられる。
- ・相談したら障害のレッテルを張ることになる、わだつみに相談するのも迷いがある。
- ・包括がケースに出くわすことが多いが相談しても全てに対応して頂ける場合ばかりではない、精査しているのか？→市との関連が必要な場合は対応している。
- ・いかに地域の人に関わってもらえるか？
- ・実態はないが息遣いだけは感じる(襖の奥で)。
- ・8050問題では、高齢者の課題を通して障害のある方の問題が出てくるが、高齢者の相談先が分からないと相談までに繋がらない。
- ・昔は障害に関することは家族の問題だった。
- ・問題行動があると地域から排除されることがある。
- ・困った事が言い出せない、SOS出せない。ずっと困っていて困ってる感がない。
- ・個々によっては、人慣れしていないために家庭でも生き辛さを感じている人が多い

## ③ 親・子の意識、地域について感じる事

- ・発達障害の場合分かりづらく大人になってからの問題になると親も認めない。通院同行の同意が得られない。精神手帳ない人が多い。
- ・親世代、発達に対する偏見が強い。
- ・親子の絆が強い家庭が多い。強すぎる。
- ・障害の方が家にも触れられない、どう関わればいいのか？解決できない。
- ・障害のある子を隠したい傾向についてはどうか？→サービス利用、事業所が増加していることに伴い減ってきてはいる。
- ・山間部での障害者の相談が増えてきている。親が子の問題を整理できないと自分に問題が片付けられない。外部の情報が入りにくく地域世界が狭い。
- ・地域性あり、隠している部分ある。つながればスムーズ、つながるまでの連携。



#### ④ 福祉サービスについて

- ・65才になるまで障害サービス、65才から介護サービス。似ているが支援内容が違う…誰が説明するのか、本人の理解が得られるのか？自己負担についての問題。
- ・介護保険、要支援を担当するヘルパーが減っている。
- ・学校は児童のサービス利用をどこまで知っているのか？→個別の票で把握している。
- ・介護サービスと障害支援のスピードの違い。
- ・障害は支援課へと1本化されている、地域包括は用事によって対応する課が違う。
- ・介護保険と障害サービスの利用、早めに本人に説明しても利用に至るまで理解できないのではなか？

#### ⑤ 提案、要望について

- ・各機関が何をしてくれるところなのか分からないから具体的に知りたい。連携と言っても何が具体的にできるのか？
  - ・発達障害→障害特性に名称変更したらどうか？
  - ・仕組みを変えていく必要あり。
  - ・相談支援体制マップ、更生相談所に役割→大
  - ・後見人の身上監護について個別적으로お世話できる仕組みが必要。
  - ・負担が分散されることが大切。
  - ・相談がオープンにできる地域づくり、本人が嫌と言っても促して「うん」と言える関係作り。
  - ・包括も職種が色々ある、ケースに応じて対応できる。情報もらえると良い。
  - ・「すくすくファイル」「サポートファイル」を実際に活用している方がいる。活用して情報が分かるようにしておくとう助かる。
  - ・相談先については、出生後から情報が入るように周知される事が良いと思う。
  - ・友好関係が保たれない地域もあるが、障害者を地域の中で見守り、相談できるような福祉の力が必要。
  - ・包括と障害者の相談支援事業所の連絡について
- 障害から介護保険に繋ぐタイミングは？→認定が出てからだと混乱してしまうので申請のタイミングで包括へ相談してもらおうとよい。
- 引き渡し時に欲しい情報は？→金銭、生活歴、サービス利用状況 ☆計画相談は共通書式あり。
- 介入のタイミングは？→障害相談員と包括と一緒に訪問する(事前に打ち合わせ有)

#### ⑥ 知りたいことについて

- ・事例では、後見人の役割がどのようになっているのか？本人の意思がどのように反映されているのか？金銭管理ばかりが仕事ではないはず。
- ・後見人の金銭管理とは何？
- ・手帳が取れない、支援者がいない、40代の方など、わだつみなどの支援は利用できるのか？
- ・障害者のインフォーマルな資源、地域との交流
- ・包括では何の障害か分からない→とりあえず委託相談へ(初回顔つなぎは同席して欲しい)
- ・地域包括ケア推進本部の専門職である社会福祉士の役割は何か？  
→基幹型地域包括支援センターの専門職(社会福祉士)として市内各地域包括支援センターを統括する役目を担い、相談業務の機能強化を図ること。

- ・地域包括支援センターの仕事はどのようなことか？
  - ・地域包括支援センターは障害者の相談には応じていないのか？
  - ・地域包括支援センターの中に障害の相談機関が入ることについてどのように考えるか？
- 高齢者の中にも障害者は含まれるため、一緒に相談に応じられることで柔軟な対応ができるのではないだろうか。
- ・飯田庵原包括さんの母体である(株)セントケアでは、国内の他の自治体の委託地域包括の対応などの様子を教えてほしい。→静岡市のみのため不明
  - ・弟がいなかったら市長申立てをやる。高齢者はできるが障害者の予算はないのか？→そんなことはない。障害の方もやっている。
  - ・地域の戻る際どこにつなげたらよいか？
  - ・地域包括システムの中には、高齢者も障害者も含まれることを目指していると思うが、現状では関わりが少ないように思える。
  - ・地域包括の人が相談支援事業所に行く事あるか？→用があれば行く程度。推進本部との連携はある。高齢介護課には虐待などあれば行く。

## ⑦ その他

- ・息子さんは発達障害の疑い、職を転々。母からの相談があるが「一度相談してみては？」ときっかけを作るのはどうか？
- ・本人障害有り、免許あり。取り上げる事できず、周りが心配。
- ・きりりは全市関わっているので情報共有できる。
- ・発達障害の子を祖父母が見ている(気が張っているので介護保険は必要なし)→余計介入しにくい。
- ・防災関連でも把握、情報共有が必要。
- ・相談窓口がは一とぼる・わだつみ・そらであることは知っている。
- ・400件の8050問題の実態調査。当事者から聞けることは少ないが、情報を収集して支援者がつなげていくことが大切。
- ・親にも何かある場合、母も手帳をとる必要性が見えてきたケースもある。
- ・時間をかけて関わる人がいない→自己認識に対する働きかけ＝サポートが必要。
- ・福祉の仕事に携わるようになり知る事が多い。人は自分に関わる事がなければ知ることが少ない。
- ・高齢者の担当であるケアマネや、障害者の担当の相談支援専門員のアセスメント力を高め、家庭全体を見て関係機関へ連絡し協力していくことが必要。
- ・委託障害者相談機関職員の相談対応における技能を高めるための研修があった方が良いと思う。

以上

1. 今回の連絡調整会議においては、知的障害がある方への支援の事例を取り上げましたが、会議に参加して良かった点がありましたか？

ある 25名

ない 0名

無記入 1名

上記を選んだ理由をご記入下さい。

・いろいろな事例を知ることができた。

(百花園 相談支援事業所)

・タイムリーに包括センターと連携している事例があるため

(精神保健福祉課)

・事例にとらわれず、障害がある方への支援をテーマに各々の機関が抱えている問題、疑問について、様々な関係機関の方と意見交換・情報交換することが出来たため。

(地域包括ケア推進部)

・各関係機関の立ち会いでのご意見を伺う事ができ、参考になりました。

(わだつみ)

・8050問題の実際を包括支援センターの方や相談支援事業所の方からお話していただき、知ることができ、生徒の卒業後のことや、今からやっておくべきことについて確認することが出来た。

(清水特別支援学校)

・障害の種類を問わず、とにかく支援相談所へ相談すれば良いことが分かりました。

(有度地域包括支援センター)

・「8050」→高齢者と障害者を取りまく環境の把握と連携の必要性。

(地域生活拠点 まいむまいむ)

・情報交換ができた。

(まいむまいむ)

・さまざまな話が聞けて良かった。

(興津川地域包括支援センター)

・地域包括の方との相互の考えている事が聞けたりしたこと。

(ゆうゆう舎 相談支援事業部)

・障害福祉サービスから介護保険サービスへのつなぎ等、お互いのバトンタッチの仕方について具体的に話し合うことができました。

(港南地域包括支援センター)

・障害者相談部門等と直接お話ができて今後の業務に活かせると感じた。

(両河内地域包括支援センター)

・障害の手帳がなくても、委託の相談支援事業所が相談にのって下さり、その先をすすめてもらえることが分かったので良かったです。

(静岡市暮らしごと相談支援センター(社協))

・事例を通して具体的な支援のイメージがわかりました。ありがとうございました。

(港北地域包括支援センター)

・日々の業務で似たような案件があったので、包括の動き、障害者相談窓口の動きを両方比べながら確認することが出来た。

(蒲原由比地域包括支援センター)

・障害者相談支援に関する情報について知ることができました。グループでの意見交換では相談機関で抱えている課題を分析し、テーマを設定していただいた方が、より深い意見交換が出来たのではないかと感じました。

(松原地域包括支援センター)

・行政や他機関と顔が見える中で視点の違いや支援の方法など分かり、皆連携の必要性を強く感じている事が分かって良かったです。

(港北地域包括支援センター)

・相談の中で8050問題が多くあるので、事例を通し、他機関の方の貴重な話が聞けて良かったです。

(飯田庵原地域包括支援センター)

・障害の支援と高齢者支援の違いが少しだけですが、理解出来た。

(岡船越地域包括支援センター)

・地域包括の方々と話せて良かったです。

(すずらん)

・地域包括支援センターの方々の具体的な事例をきくことができ、高齢者と障害者への取り組みの違いが分かりました。地域の中でいかに情報を共有していくか(内容、タイミング等)、連携の仕方を考えていくことが大事だと思いました。

(静岡市発達障害者支援センター「きらり」)

・顔の見える関係をとの事であったが、きたんのない意見を交わすことができた。

・初めて参加しました。申請にさかのぼらないこと(サービスが)、給付管理がないことがわかり違いを知りました。

・包括の方の困り事、障害の方の困り事をそれぞれ相談出来た。

2. 「療育手帳について」及び「障害福祉サービス利用について」に関して、ご不明な点がありましたらご記入ください。	
・介護保険との違いを再確認することが出来ました。	(地域包括ケア推進本部)
・新しいサービスが増えていることをパンフレットを見て確認することができた。療育手帳のAB以外の区別は、どこに記載があるのかよく分からなかった。	(清水特別支援学校)
・介護保険と異なる手続き(進み方)なので、こちら方がスムーズさに欠ける事もあるかもしれませんが、その都度分からないことを教えていただくと助かります。	(両河内地域包括支援センター)
・利用していたヘルパー事業所が変わっていても、プラン作成者がその状況を知らないこと、何か良い方法があれば良いのと思います。	(静岡市暮らしごと相談支援センター(社協))
・特にありませんが、申請時に気を付けることを、また機会があれば確認したい。	(蒲原由比地域包括支援センター)
・療育手帳や障害福祉サービス利用について、たいへん分かりやすく説明していただけて良かったです。	(港北地域包括支援センター)
・障害認定の内容の知識がなく、これから少し勉強したいと思いました。	(岡船越地域包括支援センター)
3. 高齢者支援に関わる方にお尋ねします。地域や家庭の中で生活する障害のある方の相談対応に関して、心配なことなどがございましたらご記入ください。	
・相談をかけた時、障害機関が、どの程度対応して頂けるのか(包括からはアウトリーチの希望があります)	(地域包括ケア推進本部)
・制度に乗せるまでの過程に不安があります。	(有度地域包括支援センター)
・理解力・判断力が不足している方ということもあり、お手伝いする際に困難さを感じることもある。包括センターだけでなく一緒にお手伝いして下さる機関があると助かるなと思うので、必要時関係機関にご相談させていただきたいと思います。	(両河内地域包括支援センター)
・障害が疑われるが、診断や手帳を持っていない方で本人に障害の認識がない方への支援をどの機関とどのように進めていけばよいのか悩みます。	
・手帳を持っていない方(障害の疑い)の具体的支援がしづらい。	(岡船越地域包括支援センター)
・親亡き後の相談が多い。	
・障害のある方(地域で独居または高齢の親と2人暮らしの方)が、過去に精神科の受診や事業者との関わりがあったが、現在は本人の意向(関わり拒否)で、どこともつながっていない方に対して、どのように支援していったらいいのか	
→この件に関して障害者相談支援事業所からの連絡を希望しますか？	
する 0	
しない 今現在困っているケースは包括より繋いでいる	(蒲原由比地域包括支援センター)
4. 障害者支援についてのご意見やご要望などをご記入ください。	
・ありがとうございます	(精神保健福祉課)
・今後、このような機会をきっかけに各機関の支援力の向上、連携がスムーズに進めることができると良いと思っています。	(地域包括ケア推進本部)
・今後ともよろしく願っています。	(清水特別支援学校)
・65歳以降へのサービスの説明や申し送りの必要性。包括支援センターと委託相談の関わり、互いに相談を行っていくルール作りの必要性。介護保険制度の理解の必要。	(地域生活支援拠点まいむまいむ)
・横のつながりを持つ機会になってよかった。駿河区でも同じ取り組みがあるので(1/15)、情報交換、共有していったらいいと思います。	(まいむまいむ)
・包括センターもご支援できる部分はお手伝いしたいと思っています。	(両河内地域包括支援センター)
・障害者の働く場の情報提供がありましたらいただきたいです。いつも堀越さんからご教示いただいています。よろしくお願いします。	(静岡市暮らしごと相談支援センター)
ありがとうございました。	
・知的障害者相談員を連絡調整会議に参加させて下さい	(育成会)